

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371301165
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会
事業所名	グループホーム集い
訪問調査日	平成19年11月12日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371301165
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会
事業所名	グループホーム集い
所在地	名古屋市守山区瀬古3丁目830番地 (電話) 052-793-7004
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年11月12日

【情報提供票より】(平成19年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年8月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤11人, 非常勤 6人, 常勤換算13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての ~1,2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0	要介護2	6		
要介護3	10	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野外科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と工場の混在した新しい地域にあり、道路は交通量も多い。デイサービスが併設され、デイの延長や介護保険外の宿泊も可能で、グループホームの入居の際の導入としても活用している。社員寮を転用した建物で3階の屋上テラスで、プランターにお花を育て、居住空間の広がりとして活用している。職員は入居者とのコミュニケーションを重要視した支援活動を行い、その結果、入居者の心身の状態が改善したり、終末期の看取りなど、医療関係者との連携や他の入居者への影響に配慮しながら介護をしており、これらはすぐれた貴重な経験となっている。入居者にとって受け入れられ、見守られながら生活出来る居心地の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点として、下駄箱や表札の工夫など環境づくりを行っている。口腔ケアは全員1日3回行っており、うがいの時もあるが実施できている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、グループホームの内部では気付かないことを含めて、サービス向上の為の事柄や、取り組んで来た事の結果を確認する機会として、評価を活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの行事内容の反省や今後の計画、入居者の地域活動への参加について具体的で前向きな意見や情報を得て、事業に取り入れ、サービスの向上に役立てている。今後、職員のケアにより、入居者の心身の状態が改善された事や、評価の取り組みについて、プライバシーに配慮しながら会議の内容にいれたり、外部の出席者に拡大する取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は会議で話し合い、速やかにケアに反映させており、時には行事のアンケートを取って運営に活かすなど、意見を受け止めて活かす姿勢がある。訪問者の意見箱や外部の相談機関の表示の仕方などには工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出時は地域の人々と挨拶や立ち話をし、地域の自治会に加入して、行事にも参加している。常に利用する喫茶店や商店の人とは馴染みの関係も出来て来ている。さらに、老人会や公民館の行事にも参加するなど、交流や連携が広がることが望まれる。

2. 評価結果（概要）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人と共通の理念であるが、グループホームとして地域社会での生活を支援するためその人らしく暮らし続けていくことを支える理念を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、活動や支援サービスにおいて、常に理念を共有し、その方向や内容を決めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時は地域の人々と挨拶や立ち話をし、地域の自治会への加入と行事への参加やいつも利用する喫茶店や商店の人などとの馴染みの関係づくりなど、交流に努めている。	○	地域の老人会や公民館の行事に参加するなど、交流の場がさらに広がる事が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、グループホームの内部では気付かないことを含めて、サービス向上の為の事柄や、取り組んで来た事の結果を確認する機会として、評価を活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者と家族、地域の人や法人内の別施設の人の出席があり、ホームの行事内容の反省や今後の計画、入居者の地域活動への参加について具体的で前向きな意見や情報を得て、事業に取り入れ、サービスの向上に活かしている。	○	職員のケアの結果やプライバシーに配慮しながら、入居者の心身の状態が改善された事や、評価の取り組みを会議の内容に含められること、また、法人外の出席者についての拡大が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の社会福祉協議会にはボランティア派遣の協力を得ている。介護相談員の訪問は途切れている。	○	自治体が大きいいため、担当者との直接交流は困難な状況であるが、いろいろな情報を要求したり、地域包括支援センター等の社会資源と交流を持つなど、ホーム側からの積極的な働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には面接時のほかに、写真やコメントをのせた「たより」を毎月届け、個別記入欄を設けて入居者の日頃の生活状況を報告している。職員紹介欄を作るなど内容も工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は会議で話し合い、速やかにケアに反映させており、時には行事へのアンケートを取って運営に活かすなど、意見を受け止め活かす姿勢はあるが、意見用紙が活用されてなく、外部の相談機関の表示が目につきにくい。	○	意見記入用紙は、訪問者カード、外出カードと共にボール箱に入れておくシステムであるが、意見箱等の明示し楽しいものにするなど分かりやすい工夫が望まれる。玄関内壁面の額入り説明書に苦情対応窓口が書かれているが、分かりやすくする取り組みも期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事は、グループホームでは行われておらず、管理者は職員の離職の気配をなるべく早く察し、話し合うように取り組んでいる。また、新規職員には十分個別指導をして、職員が変わる事で入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の採用時研修、継続研修は全ての職員が順次参加している。ホーム内でもテーマ別に参考資料を使って研修を行っている。外部研修の参加は出張扱いとしており、今後も職員の希望を入れながら活用して行く予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では同業者と交流の機会があり、学習とネットワークづくりに役立っているが、それ以外の交流はこれからである。	○	法人外にも目を向け、ケアマネジャーの連絡会や他グループホームとの交流も活用されることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設デイサービスや宿泊を利用し、除々にグループホームの生活や職員に馴染んでから入居出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を支援する、支援されるという関係ではなく、一緒に家事を行い、一緒に楽しみ、十分なコミュニケーション保つ関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのよいコミュニケーションを持ち、アセスメントから一人一人の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から本人の思いをきき、必要な関係者と話し合って意見を取り入れ、本人がより良く生活するための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3か月毎に実施し、介護計画を見直すことにしている。状況の変化があれば随時見直しの検討を行い、家族の意見も聴いて、現状に即した新しい介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅へ退居された方の相談や、自宅介護が限界となった時のデイサービス利用者の宿泊など、本人や家族の状況に合わせて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的に健康管理医として協力医師の定期訪問診断があり、かかりつけ医との診療連携、病診連携をとる体制があり、本人及び家族の希望を大切にしながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居当初から、重度化した場合や終末期のあり方について、その後の変更があり得ることなど、本人や家族の希望を把握している。現実には、本人や家族の希望により、ホーム内で終末期を迎えた入居者がおり、医療との連携や職員の介護とその体制、他の入居者への配慮など、実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	訪問時の居室への案内や個人資料の公開も本人や家族の承認を再確認しながら行われている。面会や外出は一枚づつカードを記入する。排泄介助にトイレに入る場合にも外からきちんとした声をかけ、本人の希望にそって行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や生活の決まりの時間は緩やかに設定されている。外出や早朝のお花の水やりなども、一人一人のペースと希望にそいながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけまで、入居者がそれぞれ得意な事やできる事を自発的に行うよう支援し、職員が同じものを一緒に食べながら皆が楽しめるよう、個別援助をしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の職員の体制のある時間帯で、一人ひとりゆったりとした入浴ができるように支援している。浴槽用昇降機も設備され、身体の機能が低下している方も毎日入浴が楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	秋はお出かけするイベントに力を入れている。ホームでの誕生日会で、ごちそう作りに力を発揮してもらい一緒に祝ったり、ボランティアの日舞を楽しんでいる。作品の俳句の習字は、味わいの感じられる展示をしている。	○	ホームでは、入居者の中にはこれまでの生活歴が家族もわからないという入居者もいるので、介護する中で過去の生活歴や楽しみごとなど把握していき、一人ひとりの力を生かす支援が期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出る事を日常的にしており、馴染みの喫茶店や商店もある。玄関外のベンチも活用する。デイサービスと共用の車を使ってよく出かける。早朝に屋上のテラスに出てお花の世話をする方もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しない。出入りはセンサーで感知し、突然一人で外出する方もとめるのではなく、まず見守る。隣家から一人外出者の連絡を受けることもあり、地域の地域パトロール隊にも協力依頼しておくなど、地域の人たちの協力も得ながら安全面に配慮し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の回数は、推進会議での意見を取り入れて毎月実施し、消防署にも依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や他の食材の種類も多い、バランスのよい献立や軟らかさ、一人ひとりの分量などに配慮して、食べ物や水分の摂取量も把握しながら支援しているが、管理栄養士への指導を受けていない。	○	参考になる料理本を活用して、昼食や夕食の主菜にはカロリー数を記入した献立表があるので、法人内の管理栄養士へ相談されることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外のベンチや居間コーナーのソファ、作品の展示も努力の様子が窺われ、浴室やトイレも不快感はない。居間の棚の雑誌類や本も生活感があって過ごしやすい雰囲気である。屋上のテラスも花を育て、よく活用している。	○	奥の和室や玄関カウンターの活用の仕方等、細かい部分にも工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、テレビ、タンスや時計など個人の物が持ち込まれ、好みに配置して居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。